

# 後期高齢者医療制度に怒る道民の会

ニュース No.48

2010年 事務局：北海道社保協  
2月8日 電話011-758-2648 FAX011-758-4666

## 後期高齢者医療制度はただちに廃止！ 2.6道民集会に260人が参加！

### あふれる熱気の中、廃止に向けた運動の飛躍を確認しあう

2月6日(土)、会場の菊水ビルには開始前から続々と集まり、用意した椅子が不足して運び入れるなど会場一杯に260人が参加しました。

集会は、道生連の細川久美子さんの司会で、岩本萬（札幌明るい老後をつくる会事務局長）さんの開会の挨拶で始まりました。岩本さんは、「私たちの運動をひとまわりも二まわりも大きくして、怒りの声を全道に広げ、組織して、新たな一歩を築いていく決意の場にしていこう」と呼びかけました。



## 湯浅健夫全日本民医連事務局次長が後期高齢者医療制度の先送りの問題点と即時廃止の重要性を解明！

湯浅氏は「高齢者の人権を無視する後期高齢者医療制度は直ちに廃止せよ！」と題して講演しました。氏は、最初に「この北海道から制度をきっぱり止めさせる大きな声を上げて欲しい」と訴えて、制度の害悪と国の先送りの問題点について講演しました。

特に政権が検討している新しい制度が、後期高齢者医療制度の悪いところがすべての医療保険に拡大されかねない事態になると指摘。「3年後の廃止」と「即廃止」では本質的に大きな違いがあるとして、「なぜ即時廃止なのか」について詳しく解明しました。

また、スライドを使って、長野県と北海道の例を示しながら医療費抑制や団塊の世代をターゲットにした狙いなどをわかりやすく話し、高齢者医療改革会議では半年で新しい制度の中間まとめを行うことになっているが、様々な問題点を抱えて、できないことは明らかであり、「まずは老人保健制度に戻して、第2段階として国民の望む制度をつくる」ことの重要性を強調しました。最後に北海道での奮闘を訴えて講演を終えました。



## 「ババ漫才」で、会場が笑いの渦に！



「劇団ドラマシアターども」のむくどり姉妹（柏木恵子さん、安念優子さん）が、後期高齢者医療制度や派遣切りなどの風刺をたっぷり盛り込んだ掛け合い漫才を披露。

二人の軽妙な語りとやりとりに会場は笑いの渦に包まれました。

# 請求人・町内会長・十勝社保協からリレートーク

道広域連合運営協議会の委員であり北海道社保協副会長でもある甲斐基男さんが、2月4日に開催された運営協議会で発表された次期保険料について報告しました。次期保険料は4.99%の増となり、所得割率も10.28%とサラリーマンの医療保険よりも高くなることを指摘。保険料の値下げを迫る取り組みが必要であり、道社保協が提出した保険料上げるなの陳情の主旨説明も行われる議会傍聴（19日）を呼びかけました。

リレートークは、不服審査請求を起こした二人の請求人と町内会長、十勝社保協代表が発言し、フロアからは道広域連合議員が発言しました。

尾張正さんは、二度の審査請求を行い、誠意のかけらもない裁決書の内容や健診に関する不服審査請求がその後の健診内容の改善を見ると無駄ではなかったこと、決してあきらめずに姥捨て山制度の廃止に向けた決意を表明しました。

同じく請求人の安藤歌子さんは、「姥捨て山」の発祥の映画の内容を紹介して、高齢者を捨てるのではなくお年寄りの知恵を活かすことが大事だとして、政権交代後の後退に疑問をぶつけ、頭に降りかかった火の粉を振り払うことが若い人達にも関わることなので頑張りたいと話しました。

伏古新栄町内会会長の千田勉さんは、制度をただちに廃止して欲しいと、千田さんが腹が立つこととして、75歳でくくることや、名称問題など8つの不満を紹介して、民主党の国民への約束を果たさせるためにも共同して頑張りたいと話しました。

十勝社保協代表の高野幸雄さんは、社保協・友の会・老人クラブと共同した十勝管内自治体議会への請願運動や請願署名の取り組みを紹介し、地方自治体の運動を通じて「4年間待とう」というムードを変えることが要であると話しました。

広域連合議会議員の中橋友子（幕別町議）さんが、自治体の職員も老人保健制度に戻すことを望んでいることを紹介し、議会で奮闘することを表明しました。



尾張正さん



安藤歌子さん



千田勉さん



高野幸雄さん



中橋友子さん

## 大門実紀史参議院議員が激励に駆けつける

集会の開催にあたっては、道内選出の国会議員に挨拶・メッセージの依頼をしていました。集会には、日本共産党の大門実紀史参議院議員と新党大地の宮野明秘書が駆けつけていただき、挨拶を受けました。

また、民主党の三井わきお議員・山崎まや議員、日本共産党の紙智子議員、社民党北海道連合会からメッセージが寄せられました。

大門実紀史議員は、「札幌に入ると本当に寒く、会場に来たらとても熱く、怒りの集会が伝わってくる」と切り出し、政権の先送りを厳しく批判し、「廃止はしてくれそうだから、ちょっと待ってみようか」という気分を払拭して、新しい医療保険制度の中身を見抜いて批判していくことが大事だとして、新制度の背景や問題点を指摘しました。国会での本格的な論戦では連打で追求し、大きな決戦となる参議院選挙に向けて連帯して頑張ることを表明しました。



## 渡部務怒る会代表が行動提起

集会の最後に、渡部務代表が行動の呼びかけと閉会の挨拶を行いました。

代表は、要求実現に向けて、署名の取り組みや学習会・懇談会の開催、宣伝行動、連合議会・自治体議会請願行動など8つの具体的な行動を呼びかけました。

全日本年金者組合が取り組んでいる個人署名には、その場で133人が協力してくれ、新しい署名は417筆が集まりました。

